

### IT についてゆけない高齢者を置いてゆくことはできない！

facebook の公開グループ<ポストコロナの合唱活動を考える>が開設後瞬く間に千人を越す方々の登録がありました。諸事情により 5 月 10 日をもって一旦閉鎖することになりました。

それを受け、カワイ出版の早川由章氏が次のようなメッセージを投稿されました。早川氏のご了解を得て掲載します。

「(管理人の)千葉さんから早々にご招待を頂きながら敢えて発言は控えておりましたが、このグループが一旦閉じられるということですので、少しでも書かせて頂きます。私は幸運なことに皆さんに楽譜をお届けする立場の人間であり、加えてその楽譜を実際に使用する人間でもあります。どちらの立場に立っても現在の自粛の状況では辛いものがあります。

前者は置いておくとして、後者の立場で書かせて頂きます。私の関わっているある地方の合唱団のメンバーは 70 代を中心とした人たちです。後期高齢者と呼ばれている人たちも多いので、ここで皆さんが「ポストコロナ」の活動の中心?としてあげられているオンラインやバーチャルな合唱活動とは無縁の人たちです。

子供たちも卒業されご夫婦お二人で過ごしていらっしゃる方に Zoom だ skype だとお話しても環境すらないことが多いです。先月、私の方で新しい練習曲のパート別音源を作りましたが、その配布方法は「CD にして郵送」というアナログな状況です。

ですので、私たちの課題は「いかにしてモチベーションを保ちつつ練習が再開できる時を待つか」ということとなります。週に一度の合唱の練習は団員さんのコミュニケーションの場であり、合唱するということと同じくらい団員同士のおしゃべりが必要な場なんです。

いつ再開させるかは国でも自治体でもなく合唱団の考えだと思っています。もちろん、練習場所が無いなどの外的要因はありますが、たとえ国や自治体が非常事態宣言を取りやめても、練習再開の判断は合唱団に委ねられると考えています。だから勝手に再開すれば良い、ということではなく、私の考えでは練習の再開が一番遅くなるのではないかと、と思っています。

「群青」の歌詩ではありませんが、日常を送れることの素晴らしさを改めて感じています。団員にとって長い自粛の中で「合

唱の練習がないことが日常」にならないように、指導者に出来ることは何かを今考えています。

新しく動きだしたバーチャルな合唱活動やオンラインでの練習や演奏動画の配信などなど、とても素晴らしい事です。



今後オンライン授業やテレワークが当たり前になり人が対面しなくても物事が成立する時代が近くまで来ているのかもしれませんが、残念ながら私たちの合唱団はそれをする事が出来ない人がいます。その人

を残して先には進めないと私は思っています。

いつか再び時間が掛かっても、絶対に皆さんで集まって声を出することができる小さな場を保っていくことが今の私には大事なことの 1 つだと考えています。

千葉さんはじめ、多くの見識のある皆さんのご意見を拝見することで、自分の置かれた立場、そして自分で出来ることと出来ない事はなにかが分かりました。ありがとうございました。再び、このグループの延長にある新しい形が誕生しましたら参加させて頂きたいと思っています。」

歌うことを喜びとしている高齢者の方はたくさんいらっしゃると思います。歌うことが日々の生活に潤いをもたらす、健康で過ごしていると感じになっていることでしょう。早川氏はそんな人が一人いても置いてゆくことはできない、みんなで前進するのみとの信念をお持ちです。若く元気な団員と IT についてゆけない高齢者の両者に配慮しながらの運営は、日本中どこにでもありそうです。ポストコロナはウィズコロナ、最善の備えを今から心がけたいものです。

早川氏は、ポストコロナについて「どのタイミングで戻していくかはそれぞれの団によって(もちろんコロナの状況によっても)違って来るでしょうね。それぞれの団が熟考して再開するかしない、の判断をするのですから尊重したいと思います。」「恐らく地域で一番最初に動き出す団に世間は注目するでしょう。それでも自団の状況を踏まえて決断する勇気が必要ですね。」と述べています。

皆さんの団では如何でしょうか。形はどう変わっても遅かれ早かれ合唱活動が再びできる日は来ると思います。その時に備えて今からできる準備をはじめましょう！ (加藤良一)